

# Boone 指標による日本の銀行業の競争度推定

郡司 大志

大東文化大学 経済学部

三浦 一輝

法政大学大学院 経済学研究科 博士後期課程

## 要旨

本稿は、Boone (2008, *Journal of Institutional and Theoretical Economics* 164, 587-611) によって提案された方法を用いて、1974年から2008年の日本における金融市場の競争度を推定する。銀行業の競争度の推定を行った先行研究の多くは、ハーフィンダール指数や Panzar-Rosse (1987) の H 統計量を用いた研究である。しかしながら、これらの競争度の指標は、いずれも市場の競争度を高める要因に対して単調に変化しない。一方、Boone (2008) によって示された競争度の指標はそれらに対して単調に変化することが証明されているため、銀行業の競争度を再評価することが可能となる。推定の結果、地方銀行は、1974年から1989年まで競争度は比較的安定していたが、それ以降はやや競争度が上昇したことが分かった。

*Keywords:* 銀行業; 競争度; Boone Indicator

*JEL classification codes:* G21; L13; R51